

親睦を深め、規律を学ぶ



9月30日(土)に公益財団法人養老町スポーツ連盟および養老町スポーツ少年団が主催となり、養老町スポーツ少年団キャンボリー大会が開催されました。スポーツ少年団に登録している小学6年生を対象として、団員相互の親睦と交流を深めるとともに、規律、共同、奉仕の精神を養い、心身ともに健全な団員の育成を図ることを目的として行われました。文化活動(ひょうたんランプ作り)や野外炊事(カレーライス作り)、キャンプファイヤー(レクリエーション)をとおして、仲間意識を高めるとともに、団体行動において仲間と協力して作業することの大切さを学びました。

次世代に伝えていきたい地域の味



9月30日(土)に町中央公民館で町食生活改善推進協議会の主催による「おやこの料理教室」が開催され、町内在住の10組25人の小学生親子が参加しました。「伝えていきたい地域の味」をテーマに、さくらご飯、のっぺ汁、ほうれん草のごま和え、水まんじゅうを作りました。町の郷土料理であるさくらご飯ですが、ほとんどの親子が馬肉を使った料理は初めてのようで、「昔は普段から馬肉を食べていたんだよ」「さくらご飯はおもてなし料理として作ったよ」という食生活改善推進員の話を興味深く聞いていました。

子どもたちからは「自分で作るとうつもより美味しく感じた」「みんなで楽しく料理することができた」「自分の家でも作ってみたい」などの感想が聞かれ、貴重な体験となりました。

親子で目指す日本一



第41回岐阜県道場対抗剣道大会(全国予選)で優勝し、埼玉県で開催される第39回全国道場対抗剣道大会に親子で出場する志道館学園の加藤洋基選手(写真左)と加藤優志郎選手(写真中央)が9月28日(木)に川地憲元町長を訪問しました。

加藤選手親子は「親子で全国大会に出場することができ、とても嬉しいです。親子の絆を深められる良い機会なので、ともに励まし合い、高め合いながら日本一を目指したいです。これまでコロナ禍で思うように取り組むことができませんでしたが、これまで苦楽をともにしてきた道場の仲間と一緒に全力で挑みたいと思います」と抱負を語りました。

スポーツで広がる繋がり



愛媛県で開催される第35回全国健康福祉祭えひめ大会(ねんりんピック愛顔のえひめ2023)において、卓球の団体戦に混合ダブルスで出場する伊藤正紀選手の活躍を祈願し、9月29日(金)に激励会を開催しました。

川地憲元町長は「これからのシニアスポーツを盛り上げていくために、今後の活躍を期待しています」とエールを送りました。伊藤選手は「大会に出場するようになって、声をかけられることが増えました。卓球をとおして、繋がりが広がり、友達も増えたので嬉しく思います」とスポーツが持つ魅力について話しました。